

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271700142		
法人名	社会福祉法人 慈光会		
事業所名	湯の郷苑グループホームだんらん		
所在地	島根県大田市温泉津町福光イ85-9		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湯の郷苑グループホームだんらんでは、利用者一人ひとりの特性を大切にし、穏やかに心地よい日々を過ごしていただけるよう、職員間の連携を図り利用者さん一人ひとりが何を考え何を思い、どうしたいのかを考えて支援するよう心がけています。利用者さんの活力を引き出す為、洗濯物を干す、たたむ、片付ける、買い物に行く、炊事する等出来る範囲で行っていたり、今までの日常生活の延長と考え継続して支援を行っています。又、入居されても良い家族関係が継続できるよう、家族さんとのコミュニケーションも大切にしながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気が印象的な施設。夕食の支度や洗濯物をたたむ姿などは、どこ家庭でも見られる日常の様子ではあるが、こういった日常生活が入居者に無理のない範囲で職員と共に行われており、施設ということを感じさせない、ゆっくりと穏やかな時間が流れているホームである。また月に1回、自由行動日が設けられ、個別に馴染みの場所や友人、知人に会いに行く等の取り組みが行われている。自由行動日の実践は、利用者の表情や会話を引き出すうえで、効果的な取り組みとなっている。スタッフのチームワークの良さや家族とのコミュニケーションを大切にしている姿勢が、ホームの家庭的な雰囲気を作り出していると評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、独自の理念を作っている。また玄関や職員トイレに理念を掲示し、職員会議等でも協議する等行っている。	利用者一人ひとりの特性を大切にし、穏やかな心地よい日々を過ごして頂ける事を施設理念としている。食事、洗濯などの日常生活が入居者に無理のない範囲で職員と共に行われ、施設の生活はゆっくりと穏やかな時間が流れていることを調査時にも実感できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店に買い物に出かけたり、日々の挨拶や散歩時に声を掛け合っている。果物や野菜などを持ってきてくださるなど交流は増えている。	地域住民の方と顔なじみの関係ができており、日々の挨拶や野菜などのおすそ分けなども時々あり、良好な関係ができています。また、施設側からも近所の方の顔が最近見えないと様子を見に自宅を訪問することもあり、同じ地域で暮らす住民としてお互いを思いやる関係ができています。	地域交流を事業所が必要なときだけ行うのではなく、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる役割や活動を積極的に担っていく努力も今後期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の認知症の方のケアを報告し理解を得ている。地域の民生委員さんとの会合に参加し話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告等を行い、参加メンバーからも建設的な意見を頂いている。会議の内容はスタッフ会議でも報告し、より良いサービスを目指している。	2ヶ月に1回定期的に行われているこの会議では、地域の有識者や利用者、家族、市職員が参加され、施設運営について率直な意見交換が行われている。事業所も会議を通じて地域への情報発信ができる貴重な場として会議を認識しており、事業所運営に欠かせない会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り合い、いつでも相談できる体制が取れている。	運営推進会議にも参加する市職員が窓口となり、必要な相談ができる関係ができています。また、市社会福祉協議会にはグループホーム部会があり、事業所への支援体制も作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関を施錠することなく、自由に出入りが出来るようにしている。身体拘束廃止委員会にも参加しスタッフ会議で報告している。全職員対象で研修会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者一人ひとりの行動パターンなどを把握することで安全を確保しつつ、最近の様子や予測されるリスクに関して、その都度家族へ相談報告し、抑圧感のない自由な暮らしを支援できるような取り組みが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に参加するなどしている。スタッフ会議でも話し合いを設け防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等には参加しているが全ての職員に理解は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、何度も家族と話し合い納得頂いてから契約している。また、契約を解除する場合にも十分に話し合いを行い、関係機関とも連携を図り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口等の説明をしている。意見箱を玄関に設置し意見や不満などを記入していただけるよう配慮している。また、面会時やおたより、アンケートなどで意見を聞くようにしている。	意見箱への投書や苦情が少ない状況があるが、年2回家族へのアンケートを実施するなど、積極的に事業所側から意見を求める努力がなされており、施設運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングやスタッフ会議で意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図れるようにして意見を言いやすい雰囲気になっている。	日々の業務の中で気づいたことをスタッフが自由に書き込むことのできるノートが作成され、内容によって日々のミーティングや定例のスタッフ会議などで話し合いが行われ、業務改善が実践されている。スタッフのチームワークの良さが調査時のスタッフ面談でも感じることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや、人事考課表などを活用し、状況を把握し向上心を持って仕事が出来るようにしている。また、資格取得に向けて支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修だけでなく、法人内でも研修を行っている。市内のグループホーム部会でも勉強会を開催し参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会に毎回参加し、意見交換や交流を行っている。管理者だけでなく介護スタッフも勉強会に参加し交流を深め、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの段階からご本人の様子を詳しくお聞きしたり、入居する前には最低2回はお会いし面談を行ったり、家族や関係機関からも状況を聴くなどしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前には家族さんやご本人さんと面談しアセスメントシートも家族さんに記入してもらおうなどして、状況を理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時には地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ利用者さんと共に過ごし、利用者さんが何を思い何を感じておられるか理解するよう努めている。職場へ来た時には「帰りました。」職場を離れるときは「行ってきます。」と挨拶している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をしたり、おたよりや電話などでも状況を報告し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に利用者さんの生活歴など背景を理解できるように、出来るだけ多くの情報を収集し馴染みの場所へ一緒に外出したりしている。	月に1回、自由行動日を設け、個別に馴染みの場所や友人、知人に会いに行くなどの取り組みが行われている。自由行動日の実践は、利用者の表情や会話が豊かになり、効果的な取り組みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者さんの間に入り、会話の手助けしたり関係性について把握し、生活の場面場面で配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所になった方など、病院へ訪問し本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に面談し、本人・家族に意向をお聞きした上でプランに反映している。また、日々の関わりの中でご本人の表情からどうしたいのか把握するよう心がけている。	入居前に家族が記入する生活状況把握シートには、生活項目ごとに利用者の身体状況や生活希望が隙間なく書き込まれている。利用者一人ひとりの生活状況を把握できる資料であると共に、家族の思いを知ることのできるものでもあり、日々のケアへ役立てられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族さんに協力していただき、生活暦や生活習慣をチャートに記入してもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活の記録を、一人ひとりの生活の様子が分かるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の意向を把握するように心がけ、家族にはアンケート等で意見を求めている。ミーティングやスタッフ会議で職員全員で意見交換を行っている。	介護計画の見直しを行う際には、家族へアンケートの記入を依頼し、意向の把握に努めている。本人の希望とアンケート結果を基に、スタッフ全員で話し合いを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にケア時気付いた点等を記入しており、勤務前に確認して情報を共有している。さらに早急な検討が必要な場合は、ミーティングやカンファレンスを行い、申し送りノートに記入し全員把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りグループホームの生活を継続していただくよう、受診介助や往診介助を行うなどしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌を利用者さんと見たり、事業所の広報誌を配布している。ボランティアで習字教室や音楽教室を開催したりしているがまだ、十分とはいえない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用前からの医療が受けられるように支援している。受診時には職員が同行したり書面で生活の情報を提供している。	入居前からの医療を継続的に受けられるよう支援されている。入居後も状況に応じて本人や家族が希望する医師や医療を受けられるよう支援されている。スタッフが受診の同行を行ったり、書面により医師へ生活状況を報告するなど、必要な医療機関との連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの変化に気づいたら、管理者に報告し必要に応じて次回の往診時・受診時に主治医に報告。かかりつけ医の看護師との連携も密に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に提供し、頻回に職員が見舞いに行ったり、家族とも連絡を取っている。出来るだけ入院が長期にならないように病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を確認し、職員やかかりつけ医とも話し合っている。	これまで2名の方の終末期支援が行われている。事業所の医療・看護体制の限界を利用者・家族へ説明し、本人に苦痛のない状況であれば施設での看取りを今後も行っていく方針。利用者・家族の希望を踏まえ、必要な説明を行った上で安心・安楽な終末期支援が行えるよう検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルを作成している。毎年、消防職員を招き応急手当等の指導を受けている。また、急変が予測される場合にはその都度指導を行うなどしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となり、消防署職員立会いのもと、定期的に避難訓練を行っている。	年2回の消防訓練が行われている。12月には、非常災害時に地域の協力、連携が得られるよう地域有識者との話し合いを予定している。	日頃から、地域住民や警察署、消防署等との連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力体制が得られるよう更なる取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや記録物、職員同士の会話にはイニシャルを使用しプライバシーの確保に努めている。介護時にもさりげない声がけをするなどして利用者の誇りを傷つけないように配慮している。	排泄介助など周囲の人に悟られないような気配りが自然に行うことができている。カルテや記録物に関してイニシャルを使用した情報管理方法は、その情報の個別性や守秘義務について理解し、責任ある取り扱いと管理が実践されていると評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の力に合わせて声をかけ、意思表示をしていただけるようにしている。可能な限り利用者さんの意見を尊重しているが、自己決定が難しい場面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さんの体調やペースに合わせて尊重した支援に努めているが、一人ひとりの状態や思いへの対応が出来ていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にはご本人さんに確認しながら衣類の準備をするようにしている。馴染みの美容院に行ったり、使い慣れた化粧品を準備したりしている。散髪等希望あれば理美容カーに案内している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者それぞれの好みを把握しており、又、炊事当番を決め一人ひとりの力に合わせて一緒に献立を考えたり、調理している。片付けは出来る範囲でしていただいている。食事は職員と一緒に食べ楽しい時間になっている。	職員と利用者が1人ずつ、その日の炊事当番となっており、夕食の献立を考えたり、調理を一緒に行っている。法人に所属する栄養士に相談助言を受けることができおり栄養面でも適切な管理が行われている。また、食事の後片付けも利用者の方が自然に行っておられ、お互いに助け合って下膳する姿が調査時にも見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事、水分チェックを行っており、量を見ながら好みのもを勧めたり、度々声をかけ水分など細めに飲んでいただいたり職員全員で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人さんの力に応じた、声がけ介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、排泄時の失敗を減らすため、排泄援助を行っている。失敗があっても他の利用者さんに気付かれないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫したり(冷たい牛乳、オリゴ糖)、排泄時の腹部マッサージ、運動の援助、個々に合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居時に希望の入浴回数や時間を聞いて、希望に添えるようにしている。無理な強要はせず入浴を楽しんでいただけるよう、声かけ話題の工夫をしている。	入浴準備から後片付けも含め、利用者の希望に沿うように援助されており、夜間入浴なども希望があれば実施できる体制がある。また、一方で入浴を好まれない利用者へも本人の特性に合わせた声掛けで、清潔が保たれるよう援助されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員の睡眠状況を把握し、申し送りを行っている。好みの室温や光、雑音の調整を行い安眠していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に薬の確認を行い、変更が有る度に連絡している。又、服薬確認表を作成し確実に服用していただく。内容については全員の薬の内容を全職員が閲覧しやすいファイルに綴じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や話などから何が楽しみなのかを把握するよう努め、週に1度お楽しみの日を設け、ゲーム運動、手作業、おやつ作り等行い、気分転換、楽しい時間となるよう工夫している。誕生日を祝ったり、敬老祝賀会を開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度、自由外出日を設け、自宅へ訪問したり地元の方に会ったり、食事、買い物を職員と一緒に出掛け希望に添う楽しい時間となるよう支援している。	月に1度の個別的な外出支援のほかに、近くの温泉や旅館への日帰り外出なども実施されている。また、時期の良いときには施設周辺への散歩なども日常的に行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金の所持等について意向を確認し、小額でも手元において公衆電話を掛けたり、外出日には必要品購入に家族さんから預かっているお金をお渡しし、本人さんの意向に沿う様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他人に聞こえないような場所に公衆電話を設置している。家族にも面会に來れない時は、電話で声を聞いていただけるよう、家族に依頼したり、電話がかかってきた時は、子機の利用にて居室でゆっくり話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のトイレ使用には、不快を与えないよう使用された度に確認している。目の届くところに花を飾ったり、中庭に花、野菜を植え季節・生活感を感じていただくよう工夫している。	明るい色のフローリングでソファなどを多く配置し、リラックスして過ごせるような環境作りが行われている。室温も良く、嫌な臭気も一切感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、リビング、食堂と一人ひとり好きな場所で、本人の希望を聞きながら、穏やかに過ごしていただくよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを飾る。作品(書道、塗り絵等)を飾り意欲につなげている。家族写真により家族を忘れず、つながりを深めている。出来るだけ居心地の良い部屋になるよう工夫している。	居室は二重の引き戸でプライバシーにも配慮されている。利用者本人が使いやすい場所に家具などを配置したり、作品や家族写真などが飾られるなど居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の転倒防止対策の実施。歩行不安定な方には家具をつたいながらの安全な移動をすることで自立への配慮も行っている。		